

【大賞】 第13回 日本水大賞

水辺に人が集まるまちづくり

～吉野川をはさんだ水際交流拡大プロジェクト～

特定非営利法人 新町川を守る会

はじめに

徳島市は、日本三大河川のひとつである吉野川をはじめ、1級河川26、2級河川7、準用河川3、そして普通河川102と、合計138の河川が流れる水の都です。人々は昔からその河川のほとりに住み、水の恩恵を受けながら暮らしていました。新町川の川岸には、阿波藍の繁栄を象徴する大きな藍蔵が立ち並んでいました。しかし、高度成長期における工場排水や、下水道事業の遅れによる家庭排水が原因で水の汚れが進み、人々はだんだんと川に背を向けて暮らすようになりました。この状態は昭和50年頃まで続きましたが、この惨状を見かねた市民の中から、「自分たちで汚した川は自分たちの手で再生しよう」という声生まれ、「市民の手で人々から愛される川の復活」をテーマに、平成2年、市民活動団体「新町川を守る会」を設立しました。

10年ほどして「川を活かした町づくり」として、「第3回日本水大賞 国土交通大臣賞」を受賞し、私たちの会は川を中心にした様々なまちづくりに、産・官・学・民さまざまな組織と連携・協働・協調して事業を行ってきました。当会設立の趣旨である「できるときに、できる人が、できることを」を合言葉に、徳島中心市街地の網状河川を中心とした河川環境の保全や、街の賑いの復活を目指し

て活動を広げて行きました。また、一昨年には「川での福祉と教育」「水の郷サミット」と川と水に関する全国大会も開催し、全国の人たちに「水都・徳島」を見ていただきました。

河川環境向上の啓発活動

会の発足後は、河川清掃や遊覧船の運航、水辺でのイベント活動を通して市民に河川環境に関心を寄せてもらい、人々だけでなく魚も少しずつ川に呼び戻し、今では30種類を超える魚も帰ってきて、大きな黒鯛も釣れるようになりました。釣り好きの親子によるファミリー釣り大会も盛況です。毎月2回行っているボートによる川の清掃には、企業や学校等も参加してもらえるようになりました。その他徳島市のひょうたん島(川に囲まれた市内中心部がひょうたんの形をしている)を囲む新町川と助任川の他、田宮川、吉野川の清掃、ひょうたん島周遊船の運航、花植え、植樹活動など、会では年間を通して多彩なイベントを行っています。毎年夏のはじめに行う「吉野川フェスティバル」は、今年で23回目の開催になりますが、3日間で5万人を超える人たちが集まります。運営は実行委員会を作り、全てボランティアで行い今では阿波踊りとともに、徳島の夏の風物詩となっています。



中心市街地（ひょうたん島）



堤天より乗船場までの障害者用エレベーター

ひょうたん島を周遊する河川環境啓発の遊覧船も、当初は年間100人に満たない乗船数でしたが、今では5万人を超えるようになりました。

船着場には、堤天の水際公園から高水敷の棧橋まで降りてゆく障害者用エレベーターもあり、車椅子の方でもそのまま遊覧船に乗っていただくことができます。川の中にエレベーターが設置されているのは日本でもここだけでないでしょうか。障害を持った方々も五感で川を感じるのか、周遊を終わった人たちの顔はとても穏やかで明るい表情をしています。人出の多いときには1時間を越す待ち時間の時もあり、乗船前には待ちくたびれて険しい顔の人たちも、周遊後は「ありがとうございました」「お世話になりました」と、笑顔で感謝の言葉をかけてくれます。ボランティアをしていて一番嬉しい瞬間です。遊覧船の船長も、会社経営者、消防署員、公務員等々、色々な人たちが、自分の空いた時間に手伝いに来てくれます。お客さんに感謝されたいから手伝いに来ているのではなく、お客さんの笑顔に自分も癒され、生きがいを感じているのだと思います。



毎月2回の小型船による清掃

毎月2回行っている、船からの清掃活動時を見た人たちは、目の前で沢山の浮遊ゴミを掃除している様子に感激して、ゴミを捨てない、川を汚さない気持ちになって帰られます。川は、人に見られるほど美しくなっていくのです。4年前から毎月行っている水際コンサートには、最近では周知しなくても、大勢の人たちが癒しを求めて集まって来てくれるようになりました。通行中の人たちも、やさしい川風に吹かれながら聴く素晴らしいピアノ演奏と歌声に自然と足を止めて聞いてくれています。秋には、水上台船の上で観月演奏会を行っています。日が沈み、



月末の水際コンサート

月がぼんやりと浮かぶ中、流れてくる邦楽の中で始まる踊りはとても幻想的で、市民の皆様は護岸に腰を掛け、その姿に酔いしれています。12月には、川の上の台船に大きなクリスマスツリーを飾り、光のイルミネーションが川を映します。そしてクリスマスにはトナカイが牽くソリに遊覧船を見立てて、サンタが舟の上からプレゼントを配ります。ひょうたん島一円は、サンタからのプレゼントを求める子どもたちで一杯になります。徳島のサンタは、川の上からプレゼントとともに夢も配りたいと思っています。

私たちの活動の基本は、「一人の100歩より、100人の1歩」「できる時に、できる人が、できることを」です。参加するボランティアには行事はホームページ等で周知しますが、参加の動員はかけません。みんな自分で考えて、各自の判断で集まってきます。その数が年々増えてきているのは嬉しいことです。

～吉野川をはさんだ水際交流拡大プロジェクト～

徳島の誇りであるこの川辺を舞台に、清掃やイベント、クルージングなど、美しい川辺の風景や賑わいを創造する活動への参加者を増やすとともに、川を通じてつながっている鳴門市や北島町をはじめ、周辺地域との連携を深めることによって、相互交流人口の拡大と水都の再生を目的に、本事業を実施しました。

明治から昭和初期まで徳島県内各地への主要交通であった巡航船の中でも、一番利用客の多かった「撫養航路（むやこうろ）」を再開し、航路周辺地域の人々の相互交流を図る“水際交流拡大プロジェクト”を実施しました。撫養航路の巡航船を週1回運航し、巡航中は各エリアの文化的な背景や自然環境

の他に親水公園「水辺プラザ」(県北・北島町)、藍染体験施設「藍の館」(県北・藍住町)、阿波十郎兵衛屋敷(中心部・徳島市)などの観光施設と徳島市中心部をつなぐ航路を調査したほか、撫養航路を広くPRし、市民および周辺地域の人々に水辺に対する関心を高め連携を拡大していくために、徳島市や鳴門市、北島町の各地区でシンポジウムを実施しました。

様々な組織と連携することで、自然環境の保全・美化という側面から川辺を捉えるにとどまらず、観光客誘致に向けた観光資源として、中心市街地活性化の起爆剤としてなど、さまざまな側面からアプローチしました。

⑤現在の運航状況

エコツアー・サイクリングツアー・野鳥観察ツアー・梨狩りツアー・北島ひょうたん島ツアー・勝瑞城址と徳島城址を結ぶツアー・十郎兵衛屋敷ツアー等々、たくさんの人と共同で事業を行うことによって、他団体とのネットワークも広がりました。

常設の撫養航路は大変好評で、いつも予約は2ヶ月前に一杯になります。航路沿線の自治体からも撫養航路を使った色々な観光ツアーの提案や協力依頼が来るようになり、日程の調整が大変で、嬉しい悲鳴を上げています。

また土曜の朝には、私たちの棧橋で鮮魚市が開かれます。会員の漁業士が、紀伊水道で捕れたばかりの魚を徳島中央市場の卸価格で売ってくれるので、市場を訪れたお客さんは大喜びです。すぐ横のテーブルでは炭をおこしているので、自分で焼いて食べて帰る海鮮バーベキューを楽しまれる観光客の方もいます。獲れたての魚の味は格別です。川と人との距離が近づき、まさに河川文化の再興と言えます。



新鮮な鮮魚でバーベキュー

おわりに

1990年に有志10人で会を発足し、「石の上にも三年・川の上に十年」の精神で川の清掃を行ってききましたが、23年たってやっとその成果が現れてきました。声かけをしなくても清掃時には黙って会員が集まり、10人だった会員も今では300人を超える程になりました。ゴミが散乱して悪臭を放っていた川には魚が棲みつき、人々は川に憩いを求めて集まってきて、私たちが夢に見ていた光景が、今は私たちの目の前に広がっています。私たちの活動は、「できるときに、できる人が、できることを」基本に行っています。行事は周知しますが、参加の動員はかけません。みんな自分で考えて、各自の判断で集まってきます。

また、川の整備は、地域住民の意見を多く取り入れられて行われています。その分、住民たちは自分たちでできる花壇の草取りや清掃などは住民の仕事と考えて取り組んでいます。行政が住民の熱意を活かし様々な事業に結びつけ、川だけでなく街の再生にも生かしている。私たちの遊覧船や清掃船も、徳島市、地方銀行、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、企業等から多くのご協力をいただいで運営しています。先にも紹介しましたが、遊覧船の船長も、会社経営者、消防署員、公務員、等々、色々な人たちが、自分の空いた時間に手伝いに来ます。新町川も、高度成長期のどす黒く濁って悪臭が漂っていた時代には、川には生き物は住んでいませんでした。今では30種類を超える魚も帰ってきて、大きな黒鯛も釣れます。親子で釣り竿を持って、ファミリー釣り大会も開催されています。

私たちは、日本水大賞に選ばれたことに誇りをもって、これからも市民みんなで「心おどる水都・とくしま」を守り育てていきたいと思っています。

最後になりますが撫養航路再興にあたりましてご協力をいただきました「独立行政法人 水資源機構 吉野川局 旧吉野川管理所」の皆様を初め流域市町村、各種団体の方々に紙面を借りましてお礼申し上げます。

新町川を守る会 副理事長 新居 直